



文法を楽しく!!

ぶん ぼう たの

「のだ／んだ」(2)

ー～んだから、～のならー

今回は「のだ／んだ」の使い方を勉強しました。「のだ／んだ」の基本的な意味は「事情説明」で、「のだ／んだ」はある事柄に対して「理由」や「わけ」を説明するということでした。今回は、「のだ／んだ」を用いた「～の／んだから」と「～の／んなら」について考えます。

「～んだから」

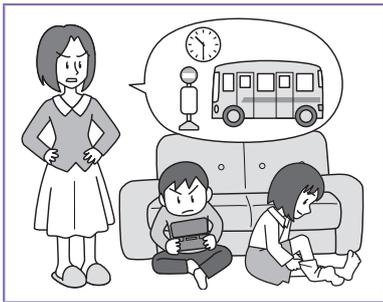
「～の／んだから」について、話しことばとしては「～んだから」のほうがよく使われるので、ここでは「～んだから」を用いて説明します。

母親が子供たちに言いました。「10時半のバスに乗るから、早く支度しなさい。」

でも、子供たちはぐずぐずしてなかなか準備が進みません。それを見た母親がもう一度言います。「10時半のバスに乗るんだから、早く支度しなさい。」

母親の2回のことばはどこが違うのでしょうか。

- (1) a. 10時半のバスに乗るから、早く支度しなさい。
b. 10時半のバスに乗るんだから、早く支度しなさい。



(1)aでは「乗るから」が使われていますが、(1)bでは「乗るんだから」になっています。

(1)aは子供に対する母親からの「はじめて」の指示

ですが、(1)bは、「支度するように言われたのに、なかなか支度しない」という「事情」を踏まえて(=事情のうえに立って)の言及になります。

「乗るんだから」を分解すると、「乗る+んだ+から」となります。「んだ」だけでも事情(理由・わけ)を表しているのに、理由を表す「から」が重なって、事情説明、理由説明の意味合いが非常に強くなっています。このことから、「～んだから」が単なる理由説明ではなく、非常に強調された言い方であることがわかります。

「～んだから」の使い方のポイントをまとめると、次のようになります。

1) 話し手も聞き手も知っている事柄に用いられ、「聞き手(あなた)も知ってはいるが、その認識が十分でない」ことを知らせようとする話し手の強い気持ちが入る。

2) 後件には、「そういうことだから、～たい、～はずだ、～ほうがいい、～てください」などの、話し手の判断や意志、願望、働きかけなどの表現が来ることが多い。

(1)bでは、10時半のバスに乗ることを言ったのに、子供たちは準備をしない、つまり、バスに乗ることに対しての子供たちの認識が十分でない、そのことに対して、「～んだから」を使って、もう一度強く母親が働きかけているということになります。

ある時、一人の学習者(Pさん)が教師である私に次のように言いました。それを聞いて私は違和感を持ち、少し腹立たしく感じました。

Pさん：用事があるんですから、早めに帰りたいんですが。

「用事がある」ことを私は知りませんでした。それなのに、「～んだから」を使って、「あなたも知っているが、その認識が十分でない」と言われても、私は納得ができません。むしろ、彼の言っていることが自分勝手に、押し付けがましく聞こえます。

では、練習問題をやってみましょう。次の各問の、aかbが適切なほうを選んでください。

【問題】

1. A: Bさん、ちょっと。
B: なあに。
A: 今日授業を(a. 休むから b. 休むんだから)、あとでノート見せてね。
B: うん、わかった。
2. A: 同窓会の仕事頼まれちゃって。
B: 大変なの?
A: うん。
B: でも、(a. 引き受けたから b. 引き受けたんだから)、しっかりやりなさいね。

3. A: この仕事、頼めるかな?

B: ごめん、今(a. 忙しいから b. 忙しいんだから)、
ちょっと無理。

A: 忙しいんだね。わかった。

4. 友達をよく授業を休む。私も時々休みたいと思う
こともあるが、せっかく大学に(a. 入ったから
b. 入ったんだから)、ちゃんと授業に出るべきだと
考えている。

迷わずにできましたか。迷ったところもありますか。

答えは、1-a、2-b、3-a、4-bです。

1は、Aが授業を休むことをBは知らないので、突然「休むんだから」と言われても、Bには理解できないでしょう。仮に理解できたとしても、押し付けがましく感じるはず。2で、BはAが同窓会の仕事を頼まれたことを知り、その事実(事情)を踏まえて、頑張るように励ましているのですから、b「引き受けたんだから」が適切になります。

3は、忙しいということはBだけが知っている事情なので、a「忙しいから」になります。ここで「忙しいんだから」を用いると、「私の事情を知っているだろう。知らないのか」というような自分勝手な言い方になります。次にAは「忙しいんだね」と言っていますが、これは、Bの説明を受けて、「ああ、そういう事情なのか」と納得して、「のだ/んだ」を用いています。

4は日記の一節で、特に決まった聞き手はいません。しかし、「大学に入った」ということは「幸せなこと、幸運なこと」で、そのようなことは誰でもが知っていること(常識)と言えます。「大学に入れたのは幸せなことだから、さぼったりしないで授業に出るべきだ」となって、b「入ったんだから」が適切になります。

このように聞き手が特定の人でなくても、「一般的な常識に基づいて」「皆が知っているように」という判断で「～んだから」が用いられることもあります。4では「幸運にも大学に入ったのに、授業をさぼるのは、常識として残念なことだ」ととらえ、他の学生の認識の不十分さを知らせていると考えられます。

「～のなら」

「～の/んなら」については、「～のなら」を使って説明します。話しことばでは「～んなら」も用いられますが、ややぞんざいに聞こえることがあります。

まず、「なら」の主な用法を復習しましょう。

1. 主題トピックを表す

(1) サッカーなら、彼が一番うまい。

(2) ビールなら、高原ビール。

2. 仮定を表す

(3) 田中さんが来るなら、会は盛り上がるだろう。

(4) 留学するなら、タイミングを見て、早く決めたほうがよい。

3. 確定していることや相手のことばを受けて

(5) A: これ、もう要らない。

B: 要らないのなら、私にちょうだい。

(6) (子供が勉強しないのを見て)

母親: 勉強しないのなら、テレビゲームもだめよ。

「なら」を使うか「のなら」を使うかという点では、1は「なら」を、3は「のなら」を使ったほうがよいと言うことができます。2については、通常は「なら」を使いますが、「のなら」も使うことができます。

(3)' a. 田中さんが来るなら、会は盛り上がるだろう。

b. 田中さんが来るのなら、会は盛り上がるだろう。

(3)'aは単に「田中さんが来るかどうかはわからないが、彼が来れば」という単なる仮定を表しますが、(3)'bは田中さんの来ることが決まっている、または、田中さんが来そうな様子である、といった事情や前提があるときに用いられ、「田中さんが来る可能性がある、その場合は…」の意味になります。

(4)' a. 留学するなら、タイミングを見て、早く決めたほうがよい。

b. 留学するのなら、タイミングを見て、早く決めたほうがよい。

(4)'aは単に「留学するかどうかはわからないが、もしするとしたら」という仮定の意味ですが、(4)'bは留学することがほぼ決まっている、または、留学する可能性がある、といった事情や前提があるときに用いられ、「留学する可能性がある、その場合は…」の意味になります。

このように「2. 仮定を表す」の場合は、単なる仮定なのか、可能性のある仮定なのか判断がつかないこともあるので、「の(だ)」があってもなくても、それほど意味が変わらない場合が多いと言えるでしょう。

このコーナーの担当者: 市川保子 (日本語国際センター客員講師)

このコーナーについてご感想やご質問があれば送ってください。